

## 平成30年漁期 すけとうだら漁獲可能量(TAC)案について

魚種	系群	資源状態		ABC(万トン)				TAC(万トン)				備考										
		水準	動向	27年	28年	29年	30年	27年	28年	29年	30年(案)											
すけとうだら	<p>【中期的管理方針】</p> <p>日本海北部系群については、極めて低い資源水準で推移しており、かつ近年の海洋環境等も資源の増大に好適な状態にあるとは認められない。親魚量がこれまでの最低水準を下回らないよう注意しつつ、着実な資源の回復を基本方向として管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p> <p>太平洋系群については、一定の親魚量の確保を通じ、豊度の高い年級群の発生により資源水準を維持することを基本方向として、漁獲動向及び加入動向に注意しつつ、管理を行うものとする</p> <p>その他の系群については、ロシア連邦の水域と我が国の水域にまたがって分布し、同国漁船によっても採捕が行われていて我が国のみでの管理では限界があることから、同国との協調した管理に向けて取り組みつつ、当面は資源を減少させないようにすることを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとする。</p>											<p>【30年TAC設定の考え方】</p> <p>(日本海北部系群)</p> <p>①資源量は下げ止まりが確認されたものの、依然としてこれ未満の親魚量水準では加入が低迷する可能性が高い水準(Blimit)を下回る状況が続いており、資源の不確実性を考慮しつつ一定期間で確実に回復させる必要があることと、②漁業経営の事情、の双方のバランスを考慮し、29年TACと等量となる、「現状の漁獲圧の維持」のTarget(0.63万トン)と同数をTAC(案)6,300トンとする。</p>										
	日本海北部系群	低位	横ばい	0.74	0.83	0.63	0.63	0.74	0.83	0.63	0.63	(オホーツク海南部)										
	オホーツク海南部	中位	減少	-	-	-	-	5.3	5.3	5.3	5.3	ロシア水域とのまたがり資源であることから、来遊状況が良好な場合に対応できる数量として、近年の最大漁獲量である24年漁期の52,023トンに基づき、TAC(案)53,000トンとする。										
	根室海峡	低位	減少	-	-	-	-	2.0 (2.7)	2.0	2.0	2.0	(根室海峡)										
	太平洋系群	中位	減少	17.7 (18.3)	18.0	18.4	17.3	17.7 (18.3)	18.0	18.4	17.3	ロシア水域とのまたがり資源であることから、来遊状況が良好な場合に対応できる数量として、近年の最大漁獲量である23年漁期の19,115トンに基づき、TAC(案)20,000トンとする。										
合計							25.74 (27.04)	26.13	26.33	25.23	(太平洋系群) 「親魚量の維持」のLimit(17.3万トン)と同数をTAC(案)173,000トンとする。											

注1)オホーツク海南部及び根室海峡は、詳細な生態や資源状況が不明なことから、ABCの算定を行っていない。

注2)27年のABC欄下段( )書きは、再評価の数量。TAC欄下段( )書きは、期中改定後の数量。

資源評価結果

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ <sup>(注1)</sup>	ABC (千トン)		参 考	
	水準	動向					2016年 親魚量	Blimit
日本海北部系群	低位	横ばい	<Blim	① 親魚量の増大(10年でBlimitへ回復)(Frec10yr)	Target	2.7	49.4千トン	親魚量 154.5千トン
					Limit	3.4		
				② 親魚量の増大(20年でBlimitへ回復)(Frec20yr)	Target	5.5		
					Limit	6.8		
				③ 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	Target	6.3		
					Limit	7.7		
				④ 親魚量の増大(30年でBlimitへ回復)(Frec30yr)	Target	6.5		
					Limit	8.1		
オホーツク海南部	中位	減少	—	—	— <sup>(注2)</sup>	—	未設定	
根室海峡	低位	減少	—	—	— <sup>(注2)</sup>	—	未設定	
太平洋系群	中位	減少	>Blim	① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	Target	79	308千トン	親魚量 151千トン
					Limit	97		
				② 親魚量の維持(Fsus)	Target	144		
					Limit	173		

注1) 中期的管理方針に合致するシナリオを記載。

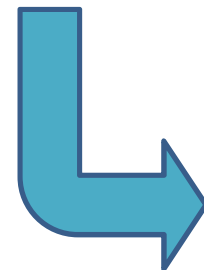
注2) オホーツク海南部及び根室海峡については、既存の情報からは資源量の算定が困難なことから、ABCの算定は行っていない。

平成30年漁期 すけとうだら漁獲可能量(TAC)の配分(案)

第1種 特定海洋生物資源	漁獲可能量 (トン)
すけとうだら	252,300



大臣管理分			
指定漁業の種類	数量(トン)	操業区域	数量(トン)
沖合底びき網漁業	158,000	日本海	3,200
		オホーツク海	52,900
		太平洋	101,900



知事管理分(数量配分県のみ)		備考
都道府県名	数量(トン)	
北海道	92,600	青森県、岩手県及び宮城県 については、若干とする。
日本海	2,800	
根室海峡	20,000	
オホーツク海南部	若干	
太平洋	69,800	